

【速報】益田川における石倉カゴを用いた生物資源量モニタリング調査  
H29年度 第一引き揚げ調査報告書

益田川と海をつなぐ自然環境保全活動組織 齋藤遼

## 1. 概要

調査日時：平成 29 年 8 月 19 日 9:00-13:00

調査場所：益田川津村橋上流

調査実施者：佐々木隆志、齋藤遼、白岡真由美、下瀬敏樹、永田康寛、岩崎弘士、滝口素行（以上アンダンテ 21）

調査補助者：吉田公民館職員 4 名、公募による市民 13 名（子ども 7 名）

採取個体数：魚類、甲殻类等水生生物 約 300 個体（計測後放流）

調査内容：7 月 20 日に設置した石倉カゴを引き揚げ、内容生物を調べた。ニホンウナギについては計測後 PIT タグの有無をリーダーにより確認、タグの無い個体は体内に埋め込み放流した。また、石倉カゴは翌 8 月 20 日に再設置した。

## 2. 調査結果

### 2.1. 内容生物の種類と個体数

内容生物の種類ごとの個体数をカウントした後放流した。結果を表 1 に示す。

表 1 第一回石倉カゴ引揚げ結果

種類名	ウナギ	他魚類	カニ類	テナガエビ	他エビ類	多毛類	昆虫類	貝類	その他
個体数	3	5	8	60	多数	0	0	1	0
内訳等	後述	カワアナゴ 1 ドンコ 2 ヌマチチブ 2	モクズガニ (全てメス 甲長 26~ 64mm)		スジエビ 17 ヌマエビ 多数			カワニナ	

### 2.2. ウナギの標識放流

ウナギの全長、胴回り寸法、重量を測定した後、PIT タグの有無を調べた。その結果、1 個体にタグが確認された。体内に PIT タグがなかった個体については、表 2 に示す通りタグ付けして放流した。

表 2 ウナギの個体値と標識番号

No.	Tag No.	全長 (mm)	胴回り (mm)	重量 (g)
4	08086094	310	55	36
5	08086017	617	107	340

次に、PIT タグのあった個体についてタグ番号を照合したところ、2016年8月27日に同所における石倉カゴ調査で、本活動組織が捕獲し、再放流したものであることが分かった。前回捕獲時と、今回の個体値の比較を表3に示す。

表3. 採捕個体の個体値比較

No.	Tag No.	測定日	全長 (mm)	胴回り (mm)	重量 (g)
2	08086042	16.8.27	494	79	170
		17.8.19	556	89	228

### 3. 総評

昨年の同時期の調査と比較すると、テナガエビの採捕個体数が増えたことと、昆虫および貝類の採捕個体数が大きく減少したことが特徴として挙げられる。これらの原因は、今後現地モニタリングを行いながら考察することとする。

また、今回調査で採捕したカワアナゴは、益田川で2例目の捕獲であった。

ウナギの標識調査に関しては、昨年調査時に標識放流した個体を再捕獲することが出来た。自然環境下で約一年間生育したニホンウナギの再捕獲は例も少なく、当該河川でのウナギの生育状況を知る上で大変貴重なデータとなった。標識放流した個体が、約一年後に（途中、石倉カゴを川から引き揚げていた時期を8か月含む）同一箇所に設置した石倉カゴで再捕獲されたという事実は、ウナギの強い縄張り意識や帰巣能力を示唆するものとも考えられる。

今回の調査結果を受け、益田川における石倉カゴ調査は、ウナギの生態研究のため、また希少種の捕獲のために大変有用な手段であると考えられる。

添付資料

1. 作業写真

